

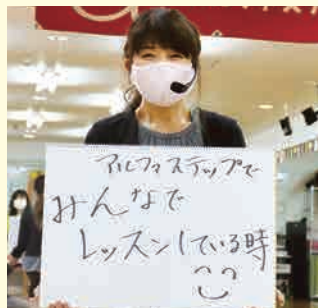
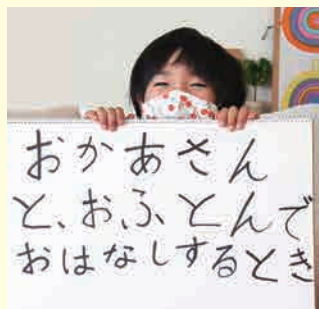
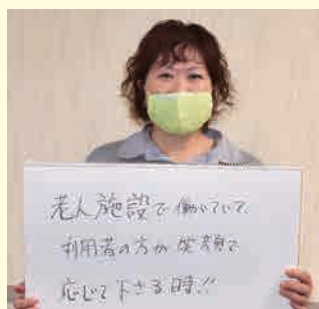
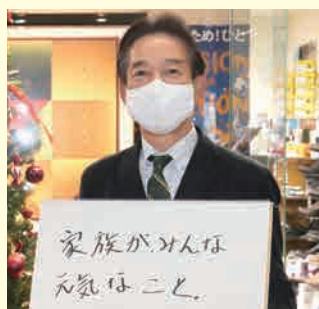
かんしや



1月号

お互い助け合う「感謝」の気持ちと「諫早市社会福祉協議会」の意味を込めて名付けました。末永く皆さまに愛される広報紙を目指しています。

2021
Vol.185



あなたのしあわせ おしえてください

しあわせ いろいろ 住人 十色

新聞やテレビなど、「福祉」という言葉をよく耳にします。福祉は、高齢者や障害者、弱い人の救済をすること、特別なことだと思われがちです。でも、本当にそうなのでしょうか。

「福祉」の漢字は、「福」も「祉」も、どちらも「幸福」や「しあわせ」を意味します。まずは、そんな「しあわせ」を探しに市内のいろんな場所へ行き話をうかがいました。

ふだんのくらしのしあわせ

中学校の福祉体験学習で出会った男子学生。幼い頃から車いす生活を送り、友達が運動する姿をただ見ながら過ごしてきたといいます。「今は友達と一緒に運動できることが夢のよう」と笑顔で傷跡を見せてくれました。

すすすすく広場で、楽しそうに遊ぶ子どもを見守るお母さんたち。毎日の子育てはノンストップで楽しいことばかりではないけど、子どもの笑顔と寝顔には癒されます、と口をそろえます。



老人福祉施設に勤務する女性は、コミュニケーションをうまくとれない利用者の方と気持ちを通じたときとの喜びを感慨深げに話してくれました。

福祉は日常の中に

今回、話をうかがったみなさんの多くは、

しあわせはふだんの生活の中に存在し特別なことではないということ。

「福祉」イコール「しあわせ」だとすれば、福祉はそんな特別なことではなく、誰もが身近にあることなのかもしれません。

共に生き 支え合う

地域の中には、高齢者、障害がある人、大人も子どもたちも、いろんな人が生活しています。それぞれの違いを認め合いながら、お互いが思いやりを持つことも忘れてはいけません。しあわせの背中合わせで困りごとや悩みごともありますが、地域の人やボランティアの方々など、たくさんの方が支えになってくれています。

人と人のつながりが地域を支え、しあわせを運んでいきます。地域を支える全てのみなさんに「かんしゃ」。



マスク1万枚を寄附

12月7日（月）株式会社新長崎製作所（代表取締役 梶原正雄 様）よりマスク1万枚のご寄附をいただきました。

貝津町にある地元企業として、地域・社会貢献活動に熱心に取り組まれており、諫早におけるウイルス蔓延を防ぐため、マスクが必要な方に届けられたらという思いでお届けいただきました。

これからも、新型コロナウイルスの第3波の備えとしてマスクの需要が更に高まっています。

ご寄附いただきましたマスクにつきましては、地域で必要とされている方々に早速配布し感染予防に活用させていただきます。



サロン参加でいつまでも元気に

～小長井地区社会福祉協議会～

小長井地区社会福祉協議会（徳永秋男会長）では、高齢者の生きがいつくりと介護予防のため、16箇所でふれあいきいきサロンを開催しており、高齢者を支える活動が活発に行われています。

新型コロナウイルスの影響を受け、一時活動を自粛していましたが、感染予防対策をしながら再開しています。

●月1回の開催を楽しみに

打越ふれあいきいきサロンは、毎月20日の午前10時から午後3時まで打越公民館で実施しています。現在、利用者13人ボランティア10人の方が利用。毎月1回、体操やお話をしながらサロンの時間を楽しく過ごしています。

サロン代表者の福本邦子さんは、「月1回皆さんが集まれる場所。楽しい話をしながら過ごせる時間を今後も続けていきたい」と語られました。



みんなでラジオ体操

生きがいと健康づくりの拠点として

●指定管理施設を運営

地域の福祉活動を展開するため、諫早市小長井さざんか会館に事務局を設置し、隣接する諫早市小長井健康センターの2施設を管理運営しています。

小長井さざんか会館は、大広間や老人憩いの間などの施設を利用でき、一人暮らし高齢者の集いや各種会議の開催に利用しています。一方、小長井健康センターは、満7歳以上から高齢者まで、誰もが利用でき、利用した人に交流が生まれ、生きがいと健康づくりの拠点となるよう取り組んでいます。

両施設は、住民の拠り所で、地域住民の間では、身近な施設を利用できることで親しまれており、指定管理施設を運営し、地域に大きな役割を果たしております。



小長井さざんか会館



小長井健康センター

管理者からの一言

「天草や良い日には有明海と雲仙岳がまれに見える見晴らしの良いところに小長井さざんか会館と小長井健康センターがあります」

鯉料理専門「理想庵」から「割烹 寿美礼」、そして「割烹 すみれ」。名前は変わっても変わらぬ味で地域に愛されつづける「割烹 すみれ」の女将さんに「変わらぬ思い」について話をうかがいました。

出会いと笑顔は宝物

創業者である義祖父母が、縁あって諫早に移り住み、「理想庵」を任されたことが、現在の「割烹すみれ」をはじめのきっかけに。お客様の出会いと笑顔は宝物、もっともっと美味しいものを提供したい。創業者のこの思いを大切にしていきたいと、女将の熱い思いを話してくれました。



変わらぬ思い

昭和32年の諫早大水害後に、現在の城見町に場所を移して営業を再開。水害を経験し、たくさんの人の温かい心に支えられて再建できたからこそ、自分ができることで恩返しをしたい。「安くて、ボリュームがあって、美味しい料理」を提供する。

この思いは、今も受け継がれています。よくお店を利用いただくお客様に「メニュー表も値段も全然変わらんね。」と言われますとニコリ。



幸せのおすそ分けを募金箱へ

亡主人の口癖は「奉仕の心を忘れるな」。時間をみつければ、地域のボランティア活動に参加するほど。活動後の充実感は格別と話す表情はイキイキしていたといいます。お店の受付にある「赤い羽根共同募金の募金箱」もその一つ。食事をすませたお客様から、幸せのおすそ分けを募金箱にいただいているそうです。

郷土料理で 豊かな食卓を

いつでも何でも手に入るコンビニ。お店に行けばいつも美味しそうなものが並べてあります。でも、忙しい現代社会だからこそ、一つひとつ丁寧に調理したゴマ豆腐や白和えなど、昔からの変わらぬ味も大切に伝えていきたい。地域の歴史や文化、そして生活がひとつのお皿に凝縮された郷土料理。手作りならではの味を今年のお正月は、ぜひ試してみませんか。



ご寄付ありがとうございました

令和2年11月1日～令和2年11月30日受付分

次の皆さまから、心温まるご寄付をいただきました。ご厚志に沿うよう地域福祉事業のため大切に使用させていただきます。

香典返し

▶ 大城晃一様 (八天町) 【亡母 絹子様】

割烹 すみれ

諫早市城見町18-7 TEL22-0094

割烹すみれ

検索



～自分のために みんなのために～ 新型コロナウイルス感染予防の取り組み

マスクを着用
しましょう



うがいや
手洗いを
念入りにしましょう



こまめに
換気
しましょう



編集
発行

社会福祉法人 諫早市社会福祉協議会

〒854-0045 諫早市新道町948番地
TEL0957-24-5100 FAX0957-24-5101
ホームページ http://isahaya-shakyo.jp

(諫早市社会福祉協議会で検索ください)

Facebookを開設しております♪最新情報を発信中!!



諫早市社会福祉協議会



1月のふれあい福祉相談

日常生活における
様々な心配ごと・悩
みごとなど、何でもお
たずねください。

一般相談

開設日	月曜日～金曜日 (祝祭日を除く)
開設時間	午前10時～午後3時
場所	ふれあい福祉相談センター (諫早市社会福祉会館内) 【専用電話】23-7022

諫早市社会福祉協議会だより「かんしゃ」では、広報紙に関するご意見、地域で行われる福祉活動や行事の情報を皆さまから募集しています。